

大阪府立高のベテラン教員

私学の教壇に

——新年度から 5人派遣

魅力ある教育へ交流体験

大阪府と府教委は十三日までに、府立高校のベテラン教師を派遣して、府内の私学の教師と共同研究を行う「私立高等学校教育振興研究事業」を、新年度からスタートさせることを決めた。公立高校の教師が私立高校の教壇に立つなど、公私の壁を超える全国初の試み。相互に協力し合って魅力ある学校づくりを研究する。私学側は公立教員の豊富な知識や経験を活用、公立側も私学の特色ある教育を学ぶことができるなど双方のメリットも大きく、関係者は「大阪の高校教育全体の発展に役立つ」と期待を寄せている。

主体になるのは府内の私立が集まってつくる財団法人「大阪府私学総連合会」。

今後、生徒が減少していくなかで生き残りを図るには、公立・私立共通の課題として「魅力ある学校づくり」に取り組み必要があると公立の教員が共同で研究を進めることが決まった。

具体的には、府が教頭試験に合格した教員を「研究指導員」として二年間、連合会に派遣。私学の教員とともに、例えば「理科離れを防ぐための教育のあり方」などさまざまなテーマを設け実践的な研究を行う。

現行制度のままでは、府立高校の教師が私学で教えることはできない。このため、まず府教委から府の私立教員の派遣を計画してお

流を深めながら、公立教員「私学教育のレベルアップ」の持つ豊富な知識や経験を「役立ていく方針」。

一方、公立側も私学の特色ある教育や、経営などを実際に体験することで、学校に復帰した際、教育活動や学校運営に役立つとしている。

これまで公立高校の教員は、校以外の場を活用して研修などを行うことがあったが、私学に対する派遣は全国でも初の試み。府は九年度に五人程度の派遣を予定しており、二月議会上程される当初予算案に事業補助費を計上する。

AA19970012J1

1997.
2.
14.

産経新聞